

- 1 2Rの促進による資源ロスの削減
- 2 地域の循環資源を活かすリサイクルの推進
- 3 廃棄物等の適正処理の推進
- 4 災害廃棄物処理体制の構築

## 第1節 2Rの促進による資源ロスの削減

### ■現状と課題

- 資源のロスを最小限に抑制し、地球が有している限りある資源を次の世代に引き継ぐためには、3R（リデュース(発生抑制)、リユース(再利用)、リサイクル(再生利用))のうち、特に2R（リデュース、リユース）を一層進めることが求められています。
- 本県における県民一人一日当たりのごみの排出量は前年度対比で減少傾向にありましたが、平成26(2014)年度では1,051gで全国ワースト2位となっています。また、ごみステーションで回収される可燃ごみについては580gで全国ワースト1位であることから、ごみの減量に向け、積極的な取組が必要です。
- 生活系の可燃ごみの約32%は、台所から排出される生ごみであり、事業系の可燃ごみの約25%は、食品小売事業者や飲食業から排出される生ごみです。生ごみのほとんどが焼却処分されていることから、一層の排出の抑制が必要です。
- 平成24(2012)年度の食品産業における食品ロスは、全国で3,305千トン発生しています。
- リサイクルショップ、フリーマーケット、市町村の事業等により、不要となった日用品や古着等のリユースが実施されていますが、平成26(2014)年度に実施した「循環型社会づくりに関する県民等意識調査」によると、リサイクルショップ等を利用しようという県民の意識は約29%と低く、ごみの減量化として十分な成果が出ていません。
- 「循環型社会づくりに関する県民等意識調査」の結果では、ごみの減量のために重要だと思うこととして、「計画的に買い物をし、無駄買いをしない(58.6%)」、「ごみの分別、集団回収などに協力する(56.4%)」など2Rにかかる関心が高いことから、この関心を日常生活におけるごみ減量化に向けた県民一人一人の行動につなげていく取組が必要です。

一般廃棄物の排出量の推移

